



特定非営利活動法人  
横断型基幹科学技術研究団体連合  
2011 年度定時総会

日時：2011 年 4 月 25 日（月）16：30～17：00

会場：東京大学 山上会館 大会議場

開会 挨拶

会長：木村 英紀

【議事】

1. 第 1 号議案：新役員の選任
2. 第 2 号議案：2010 年度事業報告および 2011 年度事業計画案
3. 第 3 号議案：2010 年度収支決算報告および 2011 年度予算案

閉会



## 第 1 号議案:新役員の選任 2011 年度横幹連合新役員(案)

役職	来歴	#	理事任期				氏名	所属	所属学会	推薦母体
			初就任	始	終					
会長	留任(会長としては新任)	1	2003.4	2010.4	～	2012.3	出口 光一郎	東北大学	計測自動制御学会	理事
副会長	留任(副会長としては再任)	2	2005.4	2010.4	～	2012.3	安岡 善文	(独)科学技術振興機構	日本リモートセンシング学会	理事
副会長	再任(副会長としては新任)	3	2009.4	2011.4	～	2013.3	田村 義保	統計数理研究所	日本統計学会	学会
理事	留任	4	2010.4	2010.4	～	2012.3	木野 泰伸	筑波大学	プロジェクトマネジメント学会	学会
理事	留任	5	2010.4	2010.4	～	2012.3	小坂 満隆	北陸先端科学技術大学院大学	システム制御情報学会	理事
理事	留任	6	2010.4	2010.4	～	2012.3	後藤 彰	(株)荏原製作所	可視化情報学会	学会
理事	留任	7	2010.4	2010.4	～	2012.3	税所 哲郎	群馬大学	経営情報学会	学会
理事	留任	8	2010.4	2010.4	～	2012.3	佐藤 吉信	東京海洋大学	日本信頼性学会	学会
理事	留任	9	2010.4	2010.4	～	2012.3	玉置 久	神戸大学	システム制御情報学会	学会
理事	留任	10	2010.4	2010.4	～	2012.3	仲谷 善雄	立命館大学	ヒューマンインタフェース学会	学会
理事	留任	11	2010.4	2010.4	～	2012.3	本多 敏	慶應義塾大学	計測自動制御学会	学会
理事	再任	12	2007.4	2011.4	～	2012.3	山崎 憲	日本大学	日本シミュレーション学会	学会
理事	再任	13	2009.4	2011.4	～	2013.3	青木 和夫	日本大学	日本人間工学会	学会
理事	新任	14	2011.4	2011.4	～	2013.3	池上 敦子	成蹊大学	日本オペレーションズ・リサーチ学会	推薦委員会
理事	新任	15	2011.4	2011.4	～	2013.3	板倉 宏昭	香川大学	日本経営システム学会	学会
理事	新任	16	2011.4	2011.4	～	2013.3	上野 元治	(財)未来工学研究所	研究・技術計画学会	学会
理事	新任	17	2011.4	2011.4	～	2013.3	大場 允晶	日本大学	日本経営工学会	学会
理事	新任	18	2011.4	2011.4	～	2013.3	田中 秀幸	東京大学	日本社会情報学会	理事
理事	新任	19	2011.4	2011.4	～	2013.3	寺野 隆雄	東京工業大学	計測自動制御学会	理事
理事	再任	20	2009.4	2011.4	～	2013.3	平井 成興	千葉工業大学	日本ロボット学会	推薦委員会
理事	再任	21	2009.4	2011.4	～	2013.3	船橋 誠壽	横幹連合	計測自動制御学会	理事
理事	新任	22	2011.4	2011.4	～	2013.3	松岡 由幸	慶応義塾大学	日本デザイン学会	学会
理事	新任	23	2011.4	2011.4	～	2013.3	渡辺 美智子	東洋大学	日本統計学会	推薦委員会
監事	留任	1	2006.4	2010.4	～	2012.3	西村 千秋	東邦大学	日本バイオフィードバック学会	理事
監事	新任	2	2003.4	2011.4	～	2013.3	木村 英紀	(独)理化学研究所	計測自動制御学会	推薦委員会
注:初就任時期は任意団体の時期を含む										
名誉会長		1		2008.4	～		吉川 弘之	(独)科学技術振興機構		

## 2011 年度横幹連合新役員候補の略歴

新役員候補	略歴
理事	
池上 敦子	1981 年 成蹊大学 理工学部 着任 2009 年 成蹊大学理工学部 教授 [現職]成蹊大学 理工学部情報科学科 教授 [専門]OR, 数理最適化 [所属学会]日本オペレーションズ・リサーチ学会
板倉 宏昭	1987 年 日本 IBM(株)入社 1996 年 MIT スローンスクールオブマネジメント大学院修了 2000 年 東京大学大学院博士課程修了 2001 年 香川大学経済学部 着任 2004 年 香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授 [現職]香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授/研究科長 [専門]マネジメントシステム [所属学会]日本経営システム学会、プロジェクトマネジメント学会
上野 元治	1979 年 東京都立大学理学部数学科卒業 1979 年 (株)東芝 入社(中央研究所配属) 2001 年 同社 本社技術企画部、以降、コンセプトエンジニアリング部歴任 2006 年 (財)未来工学研究所 入所 [現職](財)未来工学研究所 特別研究室 室長 [専門]イノベーション戦略、研究開発競争力の国際比較、地域情報化・活性化に関する政策評価 [所属学会]研究・技術計画学会
大場 允晶	1978 年 横浜国立大学大学院工学研究科修士課程修了(電気化学専攻) 1978 年 小西六写真工業(株)入社 2000 年 日本大学経済学部 着任 2005 年 日本大学経済学部 教授 [現職]日本大学経済学部教授 [専門]生産管理 [所属学会]日本経営工学会
田中 秀幸	1986 年 通産省入省 2000 年 東京大学社会情報研究所 着任 2009 年 東京大学大学院情報学環 教授 [現職]東京大学大学院情報学環 教授 [専門]社会情報学、情報経済論、ネットワーク経済論 [所属学会]日本社会情報学会
寺野 隆雄	1978 年 (財)電力中央研究所 入所 1990 年 筑波大学大学院経営政策科学研究科 着任 1996 年 筑波大学大学院ビジネス科学研究科 教授 2004 年 東京工業大学大学院総合理工学研究科 教授 [現職]東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻教授 [専門]知能情報学—社会シミュレーション、進化計算、サービスサイエンス [所属学会]計測自動制御学会、日本シミュレーション&ゲーミング学会
松岡 由幸	1982 年 日産(株) 入社、設計部、商品開発本部歴任 1996 年 慶応義塾大学理工学部および大学院理工学研究科着任 2003 年 慶応義塾大学理工学部および大学院理工学研究科教授 [現職]慶応義塾大学理工学部機械工学科および大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻教授 [専門]デザイン科学、設計工学、プロダクトデザイン、人間工学 [所属学会]日本デザイン学会

渡辺 美智子	1981年 九州大学理学部附属基礎情報学研究施設着任 1988年 関西大学経済学部 着任 1991年 東洋大学経済学部 着任 1996年 東洋大学経済学部 教授 [現職]東洋大学経済学部国際経済学科教授 [専門]統計科学(多変量解析・潜在構造分析・統計教育など) [所属学会]日本統計学会、日本行動計量学会、応用統計学会
監事	
木村 英紀	1970年 大阪大学基礎工学部 着任 1987年 大阪大学工学部 教授 1995年 東京大学工学系大学院 教授 2002年 (独)理化学研究所 着任 [現職](独)理化学研究所BSI-トヨタ連携センター長、 (独)科学技術振興機構研究開発戦略センター 上席フェロー [専門]制御工学、システム理論、生物制御 [所属学会]計測自動制御学会

\* [所属学会]所属する主な学会

## 2. 第 2 号議案:2010(平成 22)年度事業報告および 2011(平成 23)年度事業計画案

### 2-1. 事業報告および事業計画案

#### (A) 2010 (平成 22) 年度事業報告

##### [1] 2010 (平成 22) 年度の概況

2010 (平成 22) 年度は、2011 年度からスタートする第 4 期科学技術基本計画において、課題解決型の研究開発という新たな方向性が示されるとともに、数理科学、システム科学技術など横断型科学技術の強化が指摘され、これまでの横幹連合の主張が大きく取上げられる期待実現に向かったの出発の年となった。この新たな科学技術政策に対応すべく、学会連携による課題解決活動を会員学会の総意の下に着手して態勢を整え、次の展開への基盤づくりに努めた。これらに先行して、(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター(JST/RISTEX)からは、サービス科学に関する企画調査を受託し、これを推進した。学会としての活動を裏付ける第 3 回横幹連合総合シンポジウムでは、延べ 600 名にのぼるパネル討論・企画セッション参加者を得て、新たな方向に向かったの活発な議論を行うことができた。また、調査研究会は、横断型人材育成に関する調査研究会が新たに発足し、5 調査研究会が知の蓄積への取組みを推進した。さらに、横幹技術協議会と連携して、技術フォーラムの開催に注力し、産業界からの関心を深め、産学対話が進展した。会誌、ホームページを通じて、幅広く社会とのコミュニケーションにも努めた。

会員の異動は、日本セキュリティ・マネジメント学会が新たに入会し、日本時計学会、日本バイオメカニクス学会が退会した。これにより、本日現在の会員学会数は 39 学会である。

財政面では、(独)科学技術振興機構からの事業受託によって、収支実績は昨年度よりは大幅に改善したが、単年度の赤字を解消するまでには至らなかった。事業の活発化に注力して、財政健全化に努めることは次年度の重要課題である。

2010 (平成 22) 年度の主な活動は以下の通りである。

- (1) 第 3 回横幹連合総合シンポジウムの開催 (9 月)
- (2) 第 4 回横幹連合コンファレンスの準備 (6 月～)
- (3) 第 4 期科学技術基本計画に対応した諸活動
  - ①臨時総会の開催:「学会連携による課題解決活動」への着手決議と横幹連合会員学会会長懇談会の開催 (9 月)
  - ②学会連携による課題解決活動の推進 (9 月～)
  - ③(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター (JST/RISTEX) 事業の受託 (7 月～)
- (4) SICE2010 での展示 (8 月)
- (5) 調査研究会活動の開発と推進
  - ①医薬品インタフェース (2009/04-2011/03)
  - ②人工社会 (2009/09-2011/08)
  - ③経営高度化に関わる知の統合 (2010/01-2011/12)
  - ④システム工学とナレッジマネジメントの融合 (2010/04-2012/03)
  - ⑤横断型人材育成推進 (2010/09-2012/08)
- (6) 会誌「横幹」の刊行 Vol.4 No.1 (4 月)、Vol.4 No.2 (10 月)
- (7) 横幹連合ニュースレターNo.21～No.24 の発行
- (8) 横幹技術協議会との連携活動
  - ①横幹技術フォーラムの開催 (第 25 回～30 回)
  - ②横幹技術協議会経営 WG と調査研究会 (経営高度化) との連携

##### [2] 第 3 回横幹連合総合シンポジウムの開催

- ・日程・場所:2010 年 9 月 5 日 (日)～6 日 (月)、早稲田大学 早稲田キャンパス (東京都新宿区)
- ・メインテーマ:「横幹技術の役割の新局面」
- ・統計関連学会連合、横幹技術協議会との共催 (2010 年統計関連学会連合大会との併設)
- ・プログラム

①パネル討論「科学技術・イノベーション政策のあるべき姿」

パネラー 吉川弘之 (JST)、中鉢良治 (ソニー(株))、安西祐一郎 (慶大)、黒田玲子 (東大)  
 司会 有本建男 (JST)  
 共催：横幹技術協議会、(社)日本工学アカデミー  
 後援：科学技術振興機構研究開発戦略センター(JST/CRDS)、統計数理研究所  
 出席者：約 200 名

②企画セッション (9 セッション)

横幹人材育成、問題解決型統計教育、統計教育の質保証の枠組み、サービス科学、パーティクルフィルタ、知の統合：制御システムにおけるモデルベース設計・開発、環境配慮型社会とリアルオプション

- ・実行委員会 実行委員長 田村義保 (統数研)
- ・登録 126 名 (セッション参加延べ人数 400 名)

[3] 第 4 回横幹連合コンファレンスの準備

- ・日程・場所：2011 年 11 月 28 日 (月)～29 日 (火)、石川ハイテク交流センター・北陸先端科学技術大学院大学 (石川県能美市)
- ・メインテーマ：21 世紀のイノベーション創出に向けた知の創造～40 学会が伝統文化の地・加賀に集う合同コンファレンス～
- ・実行委員長 小坂満隆 (北陸先端科学技術大学院大学)
- ・プログラム委員長 出口光一郎 (東北大学)

[4] 学会連携による課題解決活動

- ・臨時総会開催 (9 月 5 日・早稲田大学 国際会議場)
  - ①吉川弘之名誉会長キーノートスピーチ「工学領域とシステム科学」
  - ②議案「イノベーション実現への横幹連合の対応」に関して、科学技術政策の新しい動向に対応すべく、イノベーション課題、重要課題等に、会員学会として協力して取組み、さらに、関連政府機関への働きかけを行うとの提案を、満場一致で承認。
  - ③会員学会会長懇談会で具体的な推進策を議論。
- ・課題解決活動の組織化  
 課題解決活動に、21 会員学会から延べ 80 名の参加提案があり、キックオフ会合を開催 (12 月 17 日・筑波大神保町キャンパス)。農工商医連携、持続性評価、経営高度化の 3WG を編成して、それぞれ課題抽出に取り組んだ。
- ・(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター事業「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」に応募し、「地方都市活性化のための社会シミュレーション企画調査」(研究代表 寺野隆雄、期間 10 月～3 月)を受託、これを推進した。

[5] 横幹技術フォーラムの開催

横幹技術協議会と連携して、横幹技術フォーラムを 5 回開催した。

- ・第 25 回 3D とバーチャルリアリティの最近の展開 (4 月 5 日、キャンパスイノベーションセンター 国際会議室) 66 名
- ・第 26 回 シンポジウム「知の統合」に向けて—社会的役割と具体的事例— (5 月 21 日、日本学術会議 講堂) 86 名
- ・第 27 回 将来社会創造アプローチの展開—未来構想立案の実践と手法— (7 月 30 日、キャンパスイノベーションセンター 国際会議室) 82 名
- ・第 28 回 将来社会創造アプローチの展開(2)—市民との対話による構想立案— (10 月 4 日、文京シビックセンター スカイホール) 44 名
- ・第 29 回 知の新しい活用法を求めて—実践と理論の連携— (1 月 19 日、日本教育会館) 55 名
- ・第 30 回 知の統合による経営の高度化に向かって—未来経営の構想と技術課題— (3 月 22 日、日本教育会館) 40 名

(B) 2011 (平成 23) 年度事業計画案

[1] 2011 (平成 23) 年度の方針

3月11日、日本は未曾有の大震災に遭遇した。この国難にあたって、横幹連合として何をなすべきかを明らかにし、これを速やかに実行に移してゆくことが喫緊の課題である。新たな科学技術政策に応えるべく立ち上げた学会連携による課題解決活動も、この緊急事態における状況認識の下で進めてゆく必要がある。並行して、普段の着実な積み上げを必要とする活動には緩むことなく取組んでゆかねばならない。

このような基本的な視点に立脚して、関連機関との連携の下に、緊急課題および継続課題に取り組み、横幹科学技術の重要性の立証と深化、社会への貢献を目指す。これらの活動は、以下の事業として推進する。

- (1) 調査研究事業：緊急事態に対応したシンポジウムを開催し、横幹連合としての今後の取組み方向を明らかにする。多分野の交流と社会への発信を目指して、第4回横幹連合コンファレンスを開催する。また、学術・国際委員会を中心に、緊急課題・継続課題に対して、会員学会が連携した活動を推進し、横幹連合の掲げる理念の具体的な社会・産業への展開と深化に努める。これらの具体的な推進は、調査研究会やプロジェクト活動の形で行う。
- (2) 普及啓蒙事業：横幹科学技術を様々な角度から掘り下げ、また、最先端の動向を報じる会誌「横幹」の発行、横幹技術フォーラムを開催し、学界・産業界からの理解の獲得に努力する。
- (3) 広報事業：ホームページ、パンフレットを通じて、横幹科学技術の解説、イベント紹介、会員学会の活動紹介を行い、横幹連合活動の社会への浸透をはかる。
- (4) その他：長期的な事業計画の立案を行うと同時に、業務遂行状況を点検し、体質強化・運営効率化に努める。

[2] 2011 (平成 23) 年度事業計画 (次ページに記載)

## 2011(平成 23)年度横幹連合事業計画

事業名	事業内容	実施 予定 日時	受益対象者 の範囲及び 予定人数
調査研究 事業(1)	<b>&lt;緊急シンポジウム&gt;</b> 緊急事態に対応し、「強靱な社会構築」を目指して、横幹科学技術として取り組むべき課題を明確化するために、産官を含めた緊急シンポジウムを開催する。	4月	会員学会を中心とした学界および産官
調査研究 事業(2)	<b>&lt;第4回横幹連合コンファレンス&gt;</b> これまでの、コンファレンス、総合シンポジウムの成果をさらに発展させ、多分野の連携により、緊急課題を含む社会的・産業的問題への横幹的アプローチについて交流し、社会への発信にも努める。	11月	学界・産業界から広く参加を募る 150名
調査研究 事業(3)	<b>&lt;学術・国際委員会&gt;</b> 2010年度に着手した学会連携による課題解決活動体制を、緊急課題への取り組みを優先しつつ展開をはかる。国家プロジェクト、産業プロジェクト等の受託の基盤作り（横断型研究プロジェクト化等）と受託支援を行うとともに、課題解決活動のシステム科学技術等の横幹科学技術の深化に関する方向づけを行う。	4月～ 3月	会員学会を中心とした学界
調査研究 事業(4)	<b>&lt;調査研究会&gt;</b> 横幹的アプローチを必要とする社会的な課題や産業界の課題を取り上げ、複数分野の専門家によるチームを結成し、調査研究を行い、成果は報告書・フォーラム等で一般に公表する。	4月～ 3月	会員学会を中心とした学界
調査研究 事業(5)	<b>&lt;社会プロジェクト活動&gt;</b> 社会的課題に関する国家プロジェクト等を受託し、横幹科学技術による課題解決等の貢献を通じてその有用性を立証するとともに、今後、探究すべき横幹科学技術課題を明らかにする。課題によっては、産業界とも協働して取り組む。	4月～ 3月	官・学・産
調査研究 事業(6)	<b>&lt;産業プロジェクト活動&gt;</b> 産業界から提起される「横幹的アプローチを必要とする実問題」に対して、多分野の専門家からなるチームを編成して解決にあたりると同時に、今後、探究すべき横幹科学技術課題の抽出に資する（実費徴収）。	4月～ 3月	産・学
調査研究 事業(7)	<b>&lt;横断型研究プロジェクト助成&gt;</b> 学会連携による課題解決活動を中心に、複数学会分野にまたがる研究プロジェクトを公募し、助成することによって、社会・産業プロジェクトの受託基盤を作る。	4月～ 3月	会員学会を中心とした学界
調査研究 事業(8)	<b>&lt;関連研究機関との連携&gt;</b> 継続的に統数研・産総研と連携して、横幹的課題への取り組みを深耕、公開会合や出版に結びつける。	4月～ 3月	学界・一般者
普及啓蒙 事業(1)	<b>&lt;会誌「横幹」の発行&gt;</b> 横幹科学技術を様々な角度から掘下げ、多分野からの理解を深めるため、電子媒体を併用した会誌を刊行する。	4月 10月	一般者
普及啓蒙 事業(2)	<b>&lt;横幹技術フォーラムの開催&gt;</b> 主に産業界を対象に、横幹科学技術の先端研究成果を第一線で活躍する研究者が解説する。また、産学の対話の場としても活用する。	隔月	産業界の中核技術者・中核実務家
広報事業 (1)	<b>&lt;ホームページ&gt;</b> ホームページを管理運営し、横幹科学技術の解説、イベントの案内、技術討論、会員学会との交流などを行う。英文化を進める。	4月～ 3月	一般者
広報事業 (2)	<b>&lt;パンフレット・ニュースレター等による広報&gt;</b> 横幹連合の活動の紹介、横幹連合会員学会の活動の紹介、各種イベントの周知・広報等を行う。	4月～ 3月	一般者
その他	<b>&lt;事業運営の体質強化・効率化&gt;</b> 横幹連合の長期方針を立案する。業務遂行の状況を点検し、体質強化・効率化に努める。	4月～ 3月	横幹連合支援者

## 2-2 常置委員会の報告及び計画

### 2-2-1 企画・事業委員会

(A) 旧年度の事業報告 -----

#### ■企画・事業委員会

委員長 (8月まで)	原山 優子	東北大学大学院
委員長 (9月から)	安岡 善文	(独)国立環境研究所
副委員長	大熊 和彦	(財)未来工学研究所
副委員長	山崎 憲	日本大学
委員	小坂 満隆	北陸先端科学技術大学院大学
委員	田村 義保	統計数理研究所
委員	椿 広計	統計数理研究所
委員	船橋 誠壽	横幹連合
委員	平井 成興	千葉工業大学
委員	本多 敏	慶應義塾大学
委員	帯川 利之	東京大学
委員	木村 忠正	電気通信大学
委員	土谷 隆	統計数理研究所
委員	神徳 徹雄	(独)産業技術総合研究所
委員	遠藤 薫	学習院大学
委員	原 辰次	東京大学
委員	藤井 真理子	東京大学
委員	渡辺 美智子	東洋大学
委員	山本 修一郎	名古屋大学
委員	村松 健児	東海大学
委員	稲見昌彦	慶応義塾大学
委員	山本 栄	東京理科大学
委員	庄司裕子	中央大学
委員	井上光太郎	慶應義塾大学

企画・事業委員会の主課題は、(1)所掌業務：シンポジウム、コンファレンス、アカデミック・ロードマップ、人材問題、横幹連合・産総研・統数研の連携など、(2)今後取上げるべき課題の明確化と長期方針の立案である。これらについて、以下のとおり取組んだ。尚、委員長である原山優子副会長が9月以降に海外勤務となったため、後任副会長として選出された安岡善文理事が9月から委員長を務めることとなった。

#### 1. 第3回横幹連合総合シンポジウムの開催

田村義保理事が実行委員長を務め、横幹技術協議会、統計関連学会連合と共催して、9月5日～6日に早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区）で開催した。パネル討論「科学技術・イノベーション政策のあるべき姿」、9セッションからなる企画セッションで構成、登録126名、パネル・企画セッション延参加者600名を得た。収支は、収入833,000円、支出464,966円であった。

#### 2. 第4回横幹連合コンファレンスの企画立案

小坂満隆理事が実行委員長に指名され、2011年11月28日～29日に、石川ハイテク交流センター・北陸科

学技術先端大学院大学（石川県能美市）で開催する企画を立案した。想定参加者 150 名、予算規模 162 万円  
で、プログラム委員長は出口光一郎副会長に委嘱した。

### 3. 人材問題

横断型科学技術者育成のための体制の確立、文理融合を促進するための方法や教育制度の変革などの検討  
提案を目指した調査研究会（名称：横断型人材育成推進調査研究会、主査：慶応大・本多敏、期間：2010 年  
9 月～2012 年 9 月）が発足した。

### 4. 産総研・統数研連携

第 3 回横幹連合総合シンポジウムで、サービス科学に関する企画セッションを産総研、統数研と連携して  
開催した。

### 5. 課題明確化と長期方針の立案

- ・長期方針立案のために、現状の問題点を整理した。科学技術政策の立案仕組みの移行への対応、横幹連合  
の国際展開、会員学会間の交流の不足感、横幹連合執行部と会員学会の会員との情報流通の欠如などの指  
摘があった。
- ・これらを踏まえ、会員学会が連携したプロジェクト実行を構想し、臨時総会での課題解決活動へと具体化  
した。

### 6. 委員会開催状況

- ・第 1 回 4 月 27 日（火）10 時 - 12 時 統数研八重洲サテライトオフィス
- ・第 2 回 6 月 1 日（火）10 時 - 12 時 統数研八重洲サテライトオフィス
- ・第 3 回 8 月 31 日（火）13 時 - 15 時 統数研八重洲サテライトオフィス
- ・第 4 回 11 月 22 日（月）15 時 - 17 時 文京シビックセンター

#### (B) 新年度の事業計画 -----

#### ■企画・事業委員会

コンファレンス等の所掌業務の遂行と長期方針の策定に努める。異分野交流、国際連携など未着手領域ま  
で視野を広げる。学会連携活動のようにすでに実行に移されたものについては、その進捗等を把握し、企画  
業務へのフィードバックに資す。



## 2-2-2 総務・会員委員会

#### (A) 旧年度の事業報告 -----

#### ■総務・会員委員会

委員長	田村 義保	統計数理研究所
副委員長	本多 敏	慶應義塾大学
委員	佐藤 吉信	東京海洋大学
委員	船橋 誠壽	横幹連合事務局

総務・会員委員会の主課題として、(1) 横幹連合会員学会および各学会会員間の交流やサービス、(2) 健全  
な運営のための財政基盤の安定化、(3) 事務局体制の整備を設定し、これらについて以下のとおり取組んだ。

### 1. 横幹連合会員学会および各学会会員間の交流やサービス

横幹連合総合シンポジウムを中心に以下を実施した。

- ・臨時総会及び会長懇談会の開催：科学技術政策の新しい動向に対応すべく、イノベーション課題、基盤的  
課題等に下院学会として協力して取り組み、さらに、関連政府機関へのはたらきかえを行うとの提言を総

会で満場一致で承認した。これを受け学術・国際委員会が中心となり学会連携による課題解決プロジェクトを開始した。

- ・学会会員及び他学会の交流を促進するセッション構成：シンポジウムは統計関連学会連合大会と同時開催とした。これにより、会員交流のきっかけを与えたと評価される。

## 2. 健全な運営のための財政基盤の安定化

JST「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」の企画調査プロジェクトに採択された。これにより直接経費 500 万円、間接経費 150 万円を獲得することができた。

## 3. 事務局体制の整備

前年度に同体制で業務を行った。2009 年 11 月より開始した事務局月報作成を継続し、事務業務の可視化の一助とした。

## 4. その他

- ・日本セキュリティ・マネジメント学会が 2010 年 10 月から入会。日本時計学会、日本バイオメカニクス学会が 2011 年 3 月で退会。
- ・木村会長の提案により会員拡大キャンペーンを実施した。上記の日本セキュリティ・マネジメント学会の入会はこのキャンペーンの成果である。

### (B) 新年度の事業計画 -----

#### ■総務・会員委員会

2010 年度に設定した課題で解決には至っていない項目について、引き続き、今年度も継続して検討するとともに、できるところから行動に移して行く。とくに、会員学会へのサービス向上、財政基盤の強化のために、会員学会の増加、外部資金の獲得に努力する。



## 2-2-3 学術・国際委員会（学としての知の統合委員会）

### ■学術・国際委員会

委員長	出口 光一郎	東北大学
副委員長	野口 昭治	東京理科大学
委員	小坂 満隆	北陸先端科学技術大学院大学
委員	後藤 彰	(株)荏原製作所
委員	船橋 誠壽	横幹連合
委員	安岡 善文	(独)国立環境研究所
委員	池田 雅夫	大阪大学
委員	岸本 一男	筑波大学大学院
委員	櫻井 茂明	東芝ソリューション(株)
委員	内藤 耕	産業技術総合研究所
委員	高橋大志	慶應義塾大学
委員	倉橋節也	筑波大学
委員	松井 正之	電気通信大学
委員	高橋 進	東海大学/中央大学
委員	遠藤 薫	学習院大学
委員	原 辰次	東京大学
委員	板倉宏昭	香川大学
委員	松岡 由幸	慶應義塾大学

(A) 旧年度の事業報告 -----

■学術・国際委員会

第4期科学技術基本計画に対応した学会連携による課題解決活動の推進を学術・国際委員会で具体的に推進した。所掌業務として、調査研究会の進捗レビュー、新規調査研究会の審議を行った。

1. 学会連携による課題解決活動の組織化と推進

(1)WGの組織化

- ・臨時総会（9月5日開催）での議決を受けて、会員学会に参画テーマの意向聴取と研究者登録を要請し、21学会から9テーマの提案と80名の研究者登録を得た。
- ・テーマ提案、研究者登録を受けて、キックオフ会合を12月17日(金)13時 - 17時、筑波大学神保町キャンパスで開催。議論の結果次の3つのWGを発足することとなった。

WG1：農商工医連携 主査：板倉宏昭(香川大・経営システム学会)

WG2：持続性社会評価 主査：増井利彦(国立環境研)

WG3：経営高度化 主査：松井正之(電通大・経営工学会)

2010年度は、それぞれのWGで、取組み課題をまとめることとした。尚、震災で会合を持ってないためまとめは延期している。

(2)科学技術振興機構社会技術研究開発センター(JST/RISTEX)サービス科学事業の受託

- ・2010年度から発足した、JST/RISTEX 事業「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」に、人工社会調査研究会を母体とした研究チームで応募し、「地方都市活性化のための社会シミュレーション企画調査」（研究代表 寺野隆雄、期間 10月 - 3月）を受託し、島根県浜田市、同商工会議所等の協力を得てこれを推進した。
- ・本調査の一環として、ワークショップ「地方都市活性化とサービス科学」を3月9日(水)13時 - 17時30分、筑波大学神保町キャンパスで開催した。JST/RISTEX、IEEE SMC Japan Chapter 協賛。

2. 調査研究会の進捗レビューと新規提案調査研究会の審議

- ・進行中の4調査研究会（医薬品インタフェース、人工社会、経営高度化に関わる知の統合、システム工学とナレッジマネジメント）に対して、文書によるレビューを行った。
- ・新規提案の横断型人材育成推進調査研究会（主査 本多敏）の審議を行い、第4回理事会(10月28日)で承認された。

3. 委員会の開催状況

- ・第1回学術・国際委員会 8月6日 13時30分 - 15時30分、SICE 会議室
- ・第2回学術・国際委員会 10月15日 13時30分 - 15時30分、SICE 会議室
- ・第3回学術・国際委員会 12月17日 13時 - 17時、筑波大学・神保町キャンパス

(B) 新年度の事業計画 -----

■学術・国際委員会

緊急事態に対応したシンポジウム等を通じて、横幹連合として何に、どのように取組むかを立案し、2010年度にスタートした学会連携活動との調整・整合化を図ってゆく。国際対応、調査研究の企画・管理、会員学会の知の結集に向けて、「学会のあり方」「日本のプロフェッショナル化のあり方」「学会コミュニティのあり方」等を検討する



2-2-4 産学連携委員会

(A) 旧年度の事業報告 -----

■産学連携委員会

委員長 舘 暲 慶應義塾大学

副委員長	椿 広計	統計数理研究所
委員	梅干野 晁	東京工業大学
委員	太田 敏澄	電気通信大学大学院
委員	平井 成興	千葉工業大学
委員	船橋 誠壽	横幹連合
委員	榎木 哲夫	京都大学
委員	井上 雄一郎	横幹連合
委員	酒井 一博	(財)労働科学研究所
委員	澤田 一哉	パナソニック 電工(株)
委員	苗村 健	東京大学
委員	広田 光一	東京大学
委員	藤井 眞理子	東京大学
委員	本間 弘一	(株)日立製作所
委員	加藤俊一	中央大学
委員	下左近 多喜男	大阪工業大学
委員	松井 正之	電気通信大学
委員	皆川 昭一	クラリオン(株)

## 1. 産学連携委員会

2010 年度は、下記を開催した。

第 1 回「産学連携委員会」5 月 11 日(火) 15 時 30 分-17 時  
学士会館 310 号室

### 1. 2010 年度横幹技術フォーラムテーマ候補の検討

## 2. 横幹技術フォーラム

### \* 第 2 5 回横幹技術フォーラム 3D バーチャルリアリティの最近の展開

日時：2010 年 4 月 5 日 (月) 13:20~16:40

場所：キャンパスイノベーションセンター 国際会議室

司会：舘 暉、開会挨拶：桑原洋、閉会挨拶：木村英紀

#### 第 1 部 「3D と VR の現状を探る」

講演 1 「3D エクスペリエンスへのアプローチ」 河合 隆史 (早稲田大学)

講演 2 「ソニーの 3D 映像への取り組み」 大場 省介 (ソニー-PCL)

講演 3 「ドーム型 3D 映像提示への取り組み」 澤田 一哉 (パナソニック 電工)

#### 第 2 部 「3D と VR は日本のこれからの成長産業となるか」

講演 1 「バーチャルリアリティとデジタルコンテンツ」 廣瀬 通孝 (東京大学)

講演 2 「実世界を指向したバーチャルリアリティの展開」 舘 暉 (慶應義塾大学)

#### 第 3 部 総合討論

### \* 第 2 6 回横幹技術フォーラム シンポジウム「知の統合」に向けて

～社会的役割と具体的事例～

日時：2010 年 5 月 21 日 (金) 13:00~17:00

会場：日本学術会議 講堂

司会：開会挨拶：金澤 一郎 (日本学術会議会長)、閉会挨拶：矢川 元基 (総合工学委員会委員長)

#### 第 1 部 「知の統合」の社会に果たす役割 座長：舘 暉

総論 1 「知の統合」と横幹科学技術 木村 英紀 (工学基盤における知の統合分科会委員)

総論 2 「知の統合」のためになすべきこと 笠木 伸英 (工学基盤における知の統合分科会委員)

総論 3 社会のための科学としての「知の統合」 立本 成文 (総合地球環境学研究所長)

総論 4 「知の統合」による科学・技術の促進 架谷 昌信 (工学基盤における知の統合分科会委員)

#### 第 2 部 「知の統合」に向けての具体的な取り組み 座長：萩原 一郎

バイオ研究から見た「知の統合」 西島 和三 (持田製薬㈱ 医薬開発本部・専任主事/東京大学 農学生命科学研究科・特任教授)

持続可能社会な社会づくりに向けた「知の統合」鈴木 克徳 (金沢大学フロンティアサイエンス機構特任教授)

「知の統合体系化」に向けて 川村 貞夫 (工学基盤における知の統合分科会委員)

「知の統合推進」に向けて 原 辰次 (工学基盤における知の統合分科会委員)

＊第 27 回横幹技術フォーラム 将来社会創造アプローチの展開

日時：2010 年 7 月 30 日 (金) 13:05～16:50

場所：キャンパスイノベーションセンター 国際会議室

司会：船橋 誠壽、開会挨拶：桑原洋、閉会挨拶：木村英紀

講演 1 低炭素社会はどんな社会か？ 藤野 純一 (国立環境研究所 主任研究員)

講演 2 眠っているドラゴンを起こす 2 つのゲーム 大澤 幸生 (東京大学 教授)

講演 3 予測市場と集合知メカニズムの現状と展望 山口 浩 (駒澤大学 准教授)

講演 4 イノベーションを生み出す IBM の取り組み 板倉 真由美 (日本 IBM㈱ 部長)

総合討論 将来構想化のレシピ

＊第 28 回横幹技術フォーラム 将来社会創造アプローチの展開 2～市民との対話による構想立案～

日時：2010 年 10 月 4 日 (月) 13:00～16:45

場所：文京シビックセンター 26 階 スカイホール

司会：山本 修一郎 (名古屋大学 教授)、開会挨拶：桑原洋、閉会挨拶：舘 暉

講演 1 対話のシステム方法論－状況とステークホルダーの多様性への多元的アプローチ

高橋 真吾 (早稲田大学 教授) 田原 敬一郎 (未来工研 研究員)

講演 2 IT 分野におけるリスクコミュニケーション支援ツールの開発とその展開

佐々木 良一 (東京電機大学 教授内閣官房情報セキュリティ補佐官)

講演 3 専門家と市民の協同による 21 世紀型問題解決デザイン

菱山 玲子 (早稲田大学 准教授)

講演 4 経済産業省におけるオープンガバメントの取り組みについて

守谷 学 (経済産業省 商務情報政策局情報プロジェクト室 室長補佐)

総合討論 パネルディスカッション

＊第 29 回横幹技術フォーラム 知の新しい活用を求めて

日時：2011 年 1 月 19 日 (水) 13:00～16:45

場所：日本教育会館 707 号室

司会：総合司会：平井 成興 (千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター 副所長)、開会挨拶：桑原洋、閉会挨拶：舘 暉

講演 1 見守るデジタルヒューマン：実践的知識活用の事例

西田 佳史 (産業技術総合研究所 デジタルヒューマン工学研究センター チームリーダー)

講演 2 オントロジー工学：知識の体系的整理と工学的活用への挑戦

溝口 理一郎 (大阪大学 教授)

講演 3 生活機能構成学：ロボット活用社会の将来像を求めて

松本 吉央 (産業技術総合研究所 サービスロボット研究 グループリーダー)

総合討論 パネルディスカッション

＊第 30 回横幹技術フォーラム 知の統合による経営の高度化に向かって

日時：2011 年 3 月 22 日 (火) 13:25～16:45

場所：日本教育会館 707 号室

司会：大場 允晶 (日本大学 経済学部 教授)、開会挨拶：桑原洋、閉会挨拶：松井 正之

講演 1 シナリオ経営研究計画の概要 鈴木 久敏 (筑波大副学長・ビジネス科学研究科教授) 樫 広計 (統計数理研究所)

講演 2 未来の経営を体験するためのゲーミング・シミュレータ構想 白井 宏明 (横浜国立大学 教授)

講演 3 リアルタイム経営と流動面管理法開発 松井 正之 (電気通信大学 教授)

総合討論 パネルディスカッション

3. その他

課題解決への貢献に方向づけが進んだ横幹連合の活動姿勢に対応して、横幹技術協議会のパンフレットにシス



横断型基幹科学技術団体連合の知名度は必ずしも改善されるには至っていないので、引き続き国内的、国際的広報活動を行う。国内的には、ホームページの拡充、ニューズレターの継続的発行、国際的には、英文ホームページの拡充や国際会議の場での広報活動などが考えられる。また、出版検討会での成功事例収集を機とした方策の検討が望まれる。

1. 広報活動の実施

- (1) ニューズレターの発行を行う。
- (2) 和文・英文ホームページの充実を図る。

2. 国際的広報の推進

英文ホームページ、英文ポスター、ないし英文パンフレットを更新し、計測・自動制御学会の国際会議 SICE 2011（東京）で、参加者に対し PR 活動を行う。

3. 成功事例収集の検討

横断型基幹科学技術普及のため、成功事例の収集を図る方策を講じ、広報の充実を図る方策を検討する。



2-2-6 会誌編集委員会

(A) 旧年度の事業報告 -----

■会誌編集委員会

委員長	青木 和夫	日本大学
副委員長	税所 哲郎	群馬大学大学院
委員	大倉 典子	芝浦工業大学
委員	椿 広計	統計数理研究所
委員	玉置 久	神戸大学 大学院
委員	榎木 哲夫	京都大学
委員	山本 正宣	(株)シグナルコンサルタント
委員	金子 勝一	山梨学院大学
委員	杉野 隆	国士舘大学
委員	加藤 象二郎	愛知みずほ大学
委員	三宅 美博	東京工業大学
委員	山田 雄二	筑波大学
委員	奈良 高明	電気通信大学
委員	庄司裕子	中央大学
委員	長嶋 雲兵	(独)産業技術総合研究所

会誌ホームページの更新、会誌の Web 公開などの事業を引き続き行うとともに、横幹連合の活動の記録及び会員学会の分野における横幹的事例の紹介として位置づけ、会誌の発行を行った。

1. 会誌のホームページの更新

会誌のホームページを更新した。URL は以下の通り。

<http://www.trafst.jp/journal/index.html>

2. 会誌の全文 Web 公開

会誌は第 4 巻第 1 号まで Web 上にて公開している。

3. 会誌第 4 巻第 1 号の発行 (2010 年 4 月発行)

巻頭言 行動する横幹連合を目指して

原山 優子

解説：ミニ特集「経営高度化への横幹的取り組み」	経営高度化のための知の統合を目指して	松井正之 他
	横幹技術フォーラムシリーズ「経営の高度化に向けての知の統合」報告	椿 広計
	バランスト・スコアカードによる業績評価システムの構築	伊藤 和憲
	設計科学から見た IT 経営に関する社会調査の展開	角埜 恭央
	サービス生産性シミュレータの基本理念	岡田幸彦 他
論説	「課題解決型科学技術」が意味するもの ー第4期科学技術基本計画への横幹連合からの提言	木村 英紀
会員学会紹介	品質工学会の活動紹介	浜田 和孝
	日本シミュレーション&ゲーミング学会とは何か？	鐘ヶ江秀彦他
編集後記		椿 広計

4. 会誌第4巻第2号の発行(2010年10月発行)

巻頭言	横幹科学技術は結集して課題解決を図るとともにそれを越える志向を持とう	出口光一郎
解説：ミニ特集「社会デザイン」	社会デザインのための科学的方法論の確立を目指して	古田 一雄
	なぜ社会システム分析にエージェント・ベース・モデリングが必要か	寺野 隆雄
	群盲象評：社会科学モデル構築への自己批判	西條 辰義 中丸麻由子
	認知システム工学的アプローチによる社会デザイン	菅野 太郎
	サービスの設計論 ー要素の設計から関係の設計へー	下村 芳樹
解説	<場所>とくあいだ>：知の統合への哲学的アプローチ	野家 啓一
	指静脈パターンによる個人の認証	柳川 堯 青木 敏
会員学会紹介	日本バーチャルリアリティ学会の活動	廣瀬 通孝
	日本統計学会の歩みと今後の展開	岩崎 学
編集後記		税所 哲郎

(B) 新年度の事業計画 -----

■会誌編集委員会

引き続き会誌の定期発行を行う。

1. 会誌第5巻第1号の発行(2011年4月発行)

巻頭言	際(きわ)を超えて繋ぐ	安岡 善文
解説：ミニ特集「人間工学分野における横幹的取り組み」	人間工学と横断型基幹科学技術	青木 和夫
	鉄道分野における人間工学研究と横幹的アプローチ	鈴木 浩明
	航空システムにおける人間工学の役割 ーパイロットと航空交通管制官をつなぐインタフェースについてー	垣本由紀子
	人間中心設計プロセスのヒューマンインタフェース設計開発への適用	福住 伸一

	アクセシブルデザインと国際標準化
論説	システム科学技術とイノベーション
解説	ポスト・ノーマルサイエンスとグローバル感度解析
トピック	第3回横幹連合総合シンポジウム開催報告
会員学会紹介	ヒューマンインタフェース学会の活動
編集後記	

佐川 賢  
倉片 憲治  
横井 孝志  
木村 英紀  
香田 正人  
田村 義保  
土井美和子  
青木和夫

2. 会誌第5巻第2号の発行（2011年10月発行）

巻頭言
解説：ミニ特集
論説・解説等
会員学会紹介
編集後記

## 2-3 調査研究会の報告及び計画

### 2-3-1 医薬品インタフェース（終了）

(A) 旧年度の事業報告 -----

#### ■ 医薬品インタフェース調査研究会

設置期間	2009年4月～2011年3月	
幹事学会	日本人間工学会	
主査	土屋文人	(国際医療福祉大学、日本人間工学会)
副主査	大倉典子	(芝浦工業大学、日本バーチャルリアリティ学会)
幹事	木村昌臣	(芝浦工業大学、日本人間工学会)
委員	青木和夫	(日本大学、日本人間工学会)
	小松原明哲	(早稲田大学、ヒューマンインタフェース学会)
	三林洋介	(東京都立産業技術高等専門学校、日本人間工学会)
	古川裕之	(山口大学、日本医療情報学会)

平成 11 年 1 月 11 日に起きた手術患者取り違え事故を契機とし、日本における医療事故防止への取り組みが本格的に始まった。以来、厚生労働省主導による各種報告制度や警告制度の整備が進んでいるが、医薬品や医療関係者による検討だけでは、医療事故の防止に効果的な医薬品の表示の指針を明確にすることは難しい。

そこで本調査研究会では、人間工学やインタフェース、さらに横幹連合の各学会から広範囲の知恵を集め、この問題に取組み、医薬品の表示の指針の策定に寄与することにした。

#### 1. AHFE International 2010 におけるオーガナイズセッションの実施

2010 年 7 月にマイアミで開催された AHFE International 2010 において、オーガナイズドセッション”Safety of medication usage”を 7 月 19 日に実施し、ブラジルやアメリカの研究者を含めて 7 件の発表が行なわれた。本会議では、Healthcare and Patient Safety: The Failure of Traditional Approaches – How Human Factors and Ergonomics Can And MUST Help と題する Keynote Address が行われ、他のセッションでも医薬品・医療機器の使用の安全に関する発表があり、いろいろな意見交換ができた。

#### 2. イベント「製薬企業のための人間工学入門(2)」の開催

日本人間工学会医療安全研究部会との共催で、本調査研究会主査で同部会の部会長である土屋が企画し、2010 年 3 月 9 日に、上記イベントを芝浦工業大学で開催した。はじめに土屋が挨拶し、芝浦工業大学大倉研、木村研の学生が講演した後、ディスカッションを行った。厚生労働省や医薬品・医療機器総合機構の関係者も含め、約 60 名の参加があり、活発なディスカッションが行われた。

#### 3. 「医薬品の使用の安全に関する資料集」CD の発行

2009 年 3 月に発行した「医薬品の使用の安全に関する資料集」（冊子体）の CD 版を、上述イベントに合わせて発行した。（作成は昨年度に行っていたが、昨年度のイベントが延期になったため、CD の配布は今年度に行った。）

#### 4. 電子情報通信学会安全性研究会への参加

電子情報通信学会安全性研究会で、医療の安全をテーマとした発表を、本調査研究会幹事で同研究会専門委員の木村が企画し、2011年3月18日に東京海洋大で実施予定である。

5. その他

数名の委員によるインフォーマルミーティングを、前年度よりさらに活発化し、概ね月に2回のペースで実施した。

(B) 新年度の事業計画 -----

本調査研究会は新年度は継続しません。



2-3-2 人工社会調査研究会 (継続)

(A) 旧年度の事業報告 -----

■人工社会調査研究会

設置期間	2009年9月～2011年8月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
副主査	舩橋 誠壽	(日立製作所、計測自動制御学会/システム制御情報学会)
幹事	高橋 大志	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	高橋 真吾	(早稲田大学、経営情報学会)
	寺野 隆雄	(東京工業大学、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
	鳥山 正博	(野村総合研究所、経営情報学会)
	小野 功	(東京工業大学、計測自動制御学会)
	山下 泰央	(中央三井アセット信託銀行、経営情報学会)
	木村 英紀	(理化学研究所)

本調査研究会の目的は、社会を構成するミクロな要素としての人間・企業・組織と、社会のマクロな構造を、マルチエージェント技術を用いて人工社会としてモデル化することで、実社会に存在する複雑な問題の解決を目指したフレームワーク構築を行うことにある。2010年度は6回の会合を開催した。また、科学技術振興機構 社会技術研究開発センターによる、問題解決型サービス科学研究開発プログラムの調査研究を実施した。

1. 人工社会の調査研究

人工社会研究の普遍化についてそれぞれの委員の研究成果から、特に以下について意見交換を行った。

- 2010年4月 Diffusion Process 研究 (ウィーン大学) およびテーマパーク問題の報告  
社会システム・モデリングアカデミックロードマップの報告
- 2010年5月 経済・金融問題の報告
- 2010年7月 講演 航空管制モデル等：古田教授 (東京大学)
- 2010年9月 日銀 Q-JEM モデルの紹介と MAS 分類軸の議論
- 2010年10月 MAS モデルの作法についての議論
- 2011年1月 講演 歩行者エージェントの空間行動モデルの体系化研究の現在

## 兼田教授（名古屋工業大学）

この結果、人工社会モデリング手法についての課題が明確になりつつある。今後は、それらに対する標準的なアプローチの提案が可能かを議論する予定である。

## 2. サービスサイエンス調査研究

科学技術振興機構 社会技術研究開発センターによる、問題解決型サービス科学研究開発プログラム公募への提案を実施した。これは、日本のサービス産業への貢献を目指したものであり、本研究会の趣旨に沿うものであったことから、調査会主要メンバーが他の研究者と連携し、浜田市を実施場所とする「社会シミュレーション 地方都市の市街地活性化を目指すソーシャル・サービス・ソフトウェア」の題目で申請を行った。

審査の結果、来年度の再申請に向けてフィージビリティスタディを行うという、調査研究予算（直接経費 5M、間接経費 1.5M）を取得することができた。調査研究は、2010 年 10 月から 2011 年 3 月まで実施し、島根県浜田市における中心市街地活性化計画を、人工社会の視点からどのようにサポートできるのかについて、ひとつの方向性を示すことができた。詳細は、研究代表者（寺野隆雄教授）からの報告を参照されたい。

## 3. 人工社会研究の問題領域

本年度の活動として、次のような問題領域が議論された。

- Diffusion Process 研究
- テーマパーク問題
- 経済・金融問題
- 交通・歩行者流問題
- 市街地活性化問題
- 店舗内顧客行動問題
- サービスサイエンス

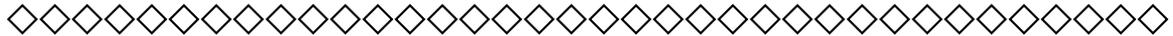
これらの議論により、人工社会が様々な領域で貢献ができる研究手法であることが確認された。特に、サービスサイエンス領域において、データマイニング研究と連携し、顧客の事前期待の把握しサービス提供側の施策シナリオをどのように最適化するのかについて、人工社会の果たす役割が明確となった。

## (B) 新年度の事業計画 -----

## ■人工社会調査研究会

2010 年度の活動で明らかになった以下の項目について、集中して調査研究を進める。

1. サービスサイエンス領域への人工社会研究の適用可能性検討  
浜田市などの調査を踏まえ、中心市街地活性化問題や消費者行動の研究を継続する。
2. 応募活動  
2011 年度に予定される、社会技術研究開発センターによる問題解決型サービス科学研究開発プログラムへの応募活動を実施する。
3. 横幹連合シンポジウムでのセッション企画  
人工社会セッション企画し、研究成果の公表と横断的に議論ができる場を設ける。



## 2-3-3 経営高度化に関わる知の統合調査研究会（継続）

### (A) 旧年度の事業報告 -----

#### ■経営高度化に関わる知の統合調査研究会

設置期間	2010年1月～2011年12月	
幹事学会	日本経営工学会	
主査	松井正之	(電気通信大学・日本経営工学会)
副主査	椿 広計	(統計数理研究所・応用統計学会)
幹事	伊呂原 隆	(上智大学・日本経営工学会)
委員	大場允晶	(日本大学・日本経営工学会)
委員	鈴木久敏	(筑波大学・日本OR学会)
委員	白田佳子	(筑波大学・日本学術会議)
委員	中岡英隆	(首都大学東京・リアルオプション学会)
委員	角埜恭央	(東京工科大学・経営情報学会)
委員	藤川裕晃	(東京理科大学・日本経営工学会)
委員	伊藤和憲	(専修大学・管理会計学会)
委員	中邨芳樹	(日本大学・経営情報学会)
委員	佐藤忠彦	(筑波大学・マーケティングサイエンス学会)
委員	中島健一	(大阪工業大学・日本経営工学会)
委員	岡田幸彦	(筑波大学・管理会計学会)

#### 1. 研究の推進体制

次の二つのグループに分かれて研究を推進する

- ①シナリオ経営に関する研究グループ
- ②リアルタイム経営に関する研究グループ

#### 2. 研究成果

◆2010年9月5,6日、早稲田大学にて開催された横幹連合総合シンポジウムにおいて「経営高度化の最前線」のセッションをオーガナイズした。本セッションでは、クラウド時代のポストERP/SCM, グローバルSCM, ビジネスゲームなどをテーマとした講演を行い、経営高度化の現状を把握するとともに、今後の展望についての議論を深めた。

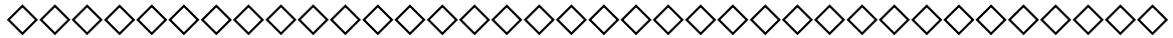
◆2011年3月22日、日本教育会館にて横幹技術フォーラム「知の統合による経営の高度化に向かって～未来経営の構想と技術課題～」を主催した。本フォーラムにおいて、シナリオ経営については、その研究構想を紹介するとともに、研究の基盤となるビジネスゲームについて紹介した。一方、リアルタイム経営については、その実現に向けたツール開発の現状を紹介した。総合討論としてパネルディスカッションも行い、産業界との活発な討論を行った。

### (B) 新年度の事業計画 -----

#### ■経営高度化に関わる知の統合調査研究会

#### 2011年度の研究計画案

- 5 月 横幹連合 WG3(経営高度化)との合同ミーティング
- 7 月 研究グループ別ミーティング
- 9 月 横幹連合 WG3(経営高度化)との合同ミーティング
- 11 月 横幹連合コンファレンス(11/28-29, 石川)にて最終成果報告



2-3-4 システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究会 (継続)

(A) 旧年度の事業報告 -----

■システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究会

設置期間	2010 年 4 月～2012 年 3 月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	中森義輝	(北陸先端科学技術大学院大学、システム制御情報学会)
副主査	辻洋	(大阪府立大学、システム制御情報学会)
幹事	河野克己	((株)日立製作所、計測自動制御学会)
委員	小坂満隆	(北陸先端科学技術大学院大学、計測自動制御学会)
	松尾博文	(神戸大学、OR 学会)
	橋本忠夫	(多摩大学大学院)
	船橋誠壽	(横断型基幹科学技術研究団体連合、計測自動制御学会)
	西岡由紀子	((株)アクトコンサルティング)

目的達成のための問題構造化に優れているシステム工学的なアプローチと、人間の創造活動を活性化する知識マネジメント的なアプローチを融合し、実社会に存在する複雑な問題の解決を目指した技術フレームワーク構築を目指し活動を進めている。企業経営や環境エネルギー、サービス事業などを対象領域にした、システム工学の新たな応用研究の調査と検討を行った。本活動成果の発表機会も含め、2011 年の横幹連合コンファレンスにおける企画セッションを立案することとした。

1. 研究事例の調査

産学より最近の研究事例を調査した。

2. 意見交換会の実施

①意見交換会を 2010 年 10 月 8 日ならびに 2011 年 3 月 24 日の 2 回実施した。大学ならびに企業より、各回 10 件余の研究発表があった。経営やサービスの諸問題などについて、最近の取組み報告があった。②研究会幹事を小坂から河野に変更した。研究会委員に小坂と橋本が加わった。

3. 調査結果の検討

①実学研究者育成のための大学での教育のあり方、産学連携での人材育成などについて問題提起があり、継続検討することとなった。②研究会にて報告された多数の研究の取組みを、第 4 回横幹連合コンファレンスで発表することとした。研究会として、企画セッションを立案することとした。

(B) 新年度の事業計画 -----

■システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究会

研究事例調査を継続する。昨年度の調査結果も含めて整理し、今後取り組むべき技術フレームワ

ークと個別研究テーマ案を検討する。検討結果は、横幹連合コンファレンスに企画セッションを設けて発表する。企画セッションには、本研究会外からも広く参加者を募る。

1. 研究事例の調査

引き続き、産学より最近の研究事例を調査する。

2. 企画セッション、意見交換会の実施

①第4回横幹連合コンファレンスに企画セッションを設ける。本研究会の検討成果を発表する。②引き続き、年2回程度、意見交換の場を設け、最新の研究取組みの発表と議論を行う。

3. 技術フレームワークの検討

調査した研究事例を基に、今後取組むべき技術フレームワークと個別研究テーマ案を検討する。



2-3-5 横断型人材育成推進調査研究会（継続）

(A) 旧年度の事業報告 -----

■横断型人材育成推進調査研究会

設置期間	2010年9月～2012年3月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
副主査	長田 洋	(東京工業大学、品質管理学会)
幹事	小坂 満隆	(北陸科学技術先端大学院大学、システム情報制御学会)
委員	鈴木 久敏	(筑波大学、日本 OR 学会)
	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
	旭岡 勝義	(社会インフラ研究センター、研究・技術計画学会)
	川田 誠一	(産業技術大学院大学、計測自動制御学会)
	古田 一雄	(東京大学、計測自動制御学会)
	藤原 靖彦	(元日産自動車、自動車技術会)
	高津 春雄	(横河電機、計測自動制御学会)
	坂井 佐千穂	(元セイコーエプソン、電子情報通信学会)
	星 千枝	(教育テスト研究センター、学会)
	佐野 昭	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)

本調査研究会では、前身の研究会で実施した、横断型科学技術者育成のための育成体制の確立、文理融合を促進するための方法や教育制度の変革、横断型科学技術者の社会における評価の仕組み、具体的な人材育成プログラムの提案、横断型・融合型人材育成のロードマップ作成などを目標とした調査研究を継続するとともに、横断型人材育成を推進するための提言の実施に向けての活動を行う。

1. 人材育成プログラムの調査研究

第1回研究会（2010年1月27日(金)）にて、新委員の紹介と関連テーマについての話題提供をお願いした。

小坂委員より、北陸先端大で展開している、文部科学省サービス人材育成プロジェクト（JAIST MOT/MOS）について報告された。

星委員より、OECDを中心とする国際的な教育達成度評価（PISA/AHELO/PIAAC）についての現状とオ

ーストラリアの状況について報告された。

## 2. 第3回横幹連合総合シンポジウムOSの実施

統計関連学会連合との共催で横幹人材養成をテーマとして9月6日(月)午前に以下のOSを企画実施した。

オーガナイザ：本多 敏（慶應義塾大学）、渡辺美智子（東洋大学）

遠藤 薫 （学習院大学）

「文理融合の必要性」

藤原 靖彦 （元日産自動車技術顧問）

「企業における横断型人材育成の現状と課題」

高木 英明 （筑波大学）

「サービス・イノベーション人材育成の試み」

星 千枝 （NPO 法人 教育テスト研究センターCRET）

「21世紀の職業人に要求される新しいジェネリックスキル---その育成と評価」

## 3. 研究会活動プランの検討

第2回研究会（2011年2月25日(金)）にて今期の委員会では、横断型人材育成の必要性の場が拡大しており、また昨年とは異なり我が国の横断型人材育成の必要性が企業では増加しており、育成された人材の outcomes 評価法の検討と、社会環境の変化に応じての横断型人材の内容変化に関し、企業インタビューを継続することとし、具体的な活動方針について、フリーディスカッションした。

### (B) 新年度の事業計画 -----

#### ■横断型人材育成推進調査研究会

横断型人材育成の必要性の場が拡大しており、また昨年とは異なり我が国の横断型人材育成の必要性が企業では増加しており育成された人材の outcomes 評価法の検討と、社会環境の変化に応じての横断型人材の内容変化に関し企業インタビューを継続する。

##### 1. インタビュー調査の実施

原子力などのエネルギーシステムの開発、輸送システムの構築・提供などの社会システムを構築し、提供、実施できる横断型人材スキルについてのインタビュー調査を実施する。

##### 2. 国際的な動向調査

上記の社会システムがビジネスモデルの構築に関する人材育成に関する国際的な動向と評価方法の調査を実施する。

##### 3. 第4回横幹連合コンファレンスでのOSの検討

本年11月に金沢で開催される表記コンファレンスでのOSの内容を検討し実施する。

## 3. 第3号議案：2010年度収支決算報告および2011年度予算案

2010年度 横幹連合 収支計算書					
2010.4.1～2011.3.31					
収入の部					(単位：円)
科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 会費収入	2,640,000	2,275,000	365,000	86.2%	全入
2. 民間補助金	500,000	100,000	400,000	20.0%	補助金(協議会より)
3. 繰越金	5,011,433	5,011,433	0	100.0%	
4. 事業収入	7,300,000	7,555,200	▲ 255,200	103.5%	
受託事業	5,000,000	6,500,000	▲ 1,500,000	130.0%	LCSS(JSTより)
プロジェクト	1,000,000	0	1,000,000	0.0%	
シンポジウム	900,000	833,000	67,000	92.6%	
会誌	400,000	222,200	177,800	55.6%	
その他	0	0	0		
5. 繰入金収入	0	0	0		
6. 雑収入	100,000	79,749	20,251	79.7%	
7. 引当金の繰り入れ	0	0	0		
収入合計 (A)	15,551,433	15,021,382	530,051	96.6%	
支出の部					
科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 管理費					
1.1 会議費	200,000	254,699	▲ 54,699	127.3%	
1.2 印刷製本費	50,000	45,813	4,187	91.6%	
1.3 通信運搬費	150,000	195,540	▲ 45,540	130.4%	
1.4 旅費交通費	150,000	212,325	▲ 62,325	141.6%	
1.5 人件費	2,650,000	2,676,208	▲ 26,208	101.0%	
1.6 消耗品・備品費	200,000	117,425	82,575	58.7%	
1.7 租税公課	50,000	1,000	49,000	2.0%	
1.8 雑費	40,000	10,698	29,302	26.7%	
小計	3,490,000	3,513,708	▲ 23,708	100.7%	
2. 事業費					
2.1 第3回シンポジウム	500,000	464,966	35,034	93.0%	
2.2 企画・事業委員会	120,000	1,600	118,400	1.3%	
2.3 産学連携委員会	80,000	0	80,000	0.0%	
2.4 学術・国際委員会	80,000	2,140	77,860	2.7%	
2.5 調査研究会	200,000	170,785	29,215	85.4%	
2.6 受託事業	3,500,000	5,470,148	▲ 1,970,148	156.3%	LCSS
2.7 プロジェクト請負活動	700,000	0	700,000	0.0%	
2.8 広報費	180,000	73,508	106,492	40.8%	
2.9 ロードマップ委員会	0	0	0		
2.10 会誌「横幹」	1,570,000	1,128,400	441,600	71.9%	
2.11 その他	120,000	80	119,920	0.1%	
小計	7,050,000	7,311,627	▲ 261,627	103.7%	
3. 予備費					
3.1 予備費	5,011,433	0	5,011,433	0.0%	
小計	5,011,433	0	5,011,433	0.0%	
支出合計 (B)	15,551,433	10,825,335	4,726,098	69.6%	
収支差額 (A-B)	0	4,196,047			

2010年度 横幹連合 貸借対照表			
2011年3月31日現在			
			(単位:円)
科 目			金 額
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金	2,433		
預 金	4,221,591		
未 収 金	0		
立 替 金	49,574		
仮 払 金	0		
流動資産合計		4,273,598	
2. 固定資産			
什器備品	0		
基 金	1,000,000		
固定資産合計		1,000,000	
資産合計			5,273,598
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未 払 金	7,002		
預 り 金	32,549		
借 入 金	0		
前 受 金	38,000		
内部仮受け金			
引 当 金	0		
流動負債合計		77,551	
2. 固定負債			0
負債合計			77,551
<b>III. 正味財産の部</b>			
正味財産			5,196,047
負債および正味財産合計			5,273,598

2010年度横幹連合会計 利益処分案				
				(単位：円)
2010年度収支差額			▼	¥4,196,047
利益処分案				
2011年度会計への繰越			▼	¥4,196,047
				以上

## 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合の 2010 年 4 月 1 日から 2011 年 3 月 31 日にいたる会計年度の収支明細と現預金残高について、書類に基づき会計監査を行った結果、適正に会計処理されており、別紙収支計算書および現預金残高は事実と相違ないことを確認しました。

また、同年度の理事会に出席して業務監査を行い、理事会の議事運営が規約に則り適正に行われていたことを確認しました。

横断型基幹科学技術研究団体連合の監査結果を以上のとおり、監事として署名・押印して報告します。

2011 年 4 月 25 日

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合

監事

印

(鈴木 久敏)

監事

印

(西村 千秋)

## 2011(平成23)年度横幹連合予算(案)

(単位：円)

科 目	予算額	前年度実績	対前年度実績差異	備 考
収入の部				
1. 会費収入	2,220,000	2,275,000	▲ 55,000	予算(39学会分：2学会退会)
2. 民間補助金	500,000	100,000	400,000	
3. 繰越金	4,196,047	5,011,433	▲ 815,386	
4. 事業収入	9,520,000	7,555,200	1,964,800	
受託事業	6,500,000	6,500,000	0	
プロジェクト	1,000,000	0	1,000,000	協議会プロジェクト
コンファレンス・シンポジウム	1,620,000	833,000	787,000	
会誌	400,000	222,200	177,800	
その他	0	0	0	
5. 繰入収入	0		0	
6. 雑収入	100,000	79,749	20,251	懇親会費等
7. 引当金繰り入れ	0	0	0	
収入合計(A)	16,536,047	15,021,382	1,514,665	
支出の部				
1. 管理費				
1. 1 会議費	200,000	254,699	▲ 54,699	
1. 2 印刷製本費	50,000	45,813	4,187	
1. 3 通信運搬費	150,000	195,540	▲ 45,540	
1. 4 旅費交通費	250,000	212,325	37,675	
1. 5 人件費	2,650,000	2,676,208	▲ 26,208	
1. 6 消耗品費・備品費	25,000	117,425	▲ 92,425	
1. 7 租税公課	5,000	1,000	4,000	印紙代等
1. 8 雑費	10,000	10,698	▲ 698	
小計(k)	3,340,000	3,513,708	▲ 173,708	
2. 事業費				
2. 1 コンファレンス・シンポジウム	1,620,000	464,966	1,155,034	
2. 2 技術シンポジウム	0	0	0	
2. 3 横幹技術フォーラム	0	0	0	
2. 4 委員会 各5万円	150,000	3,740	146,260	企画・産学・学術
2. 5 調査研究 各7.5万円	300,000	170,785	129,215	経営高度化・人工社会・シスナレ・人材育成
2. 6 受託事業	5,000,000	5,470,148	▲ 470,148	
2. 7 課題解決プロジェクト	1,000,000	0	1,000,000	
2. 8 プロジェクト請負活動	700,000	0	700,000	
2. 9 広報費	75,000	73,508	1,492	英文HP開発用
2. 10 会誌「横幹」	1,150,000	1,128,400	21,600	
2. 11 その他	0	80	▲ 80	
小計(j)	9,995,000	7,311,627	2,683,373	
3. 予備費				
3. 1 予備費	3,201,047	0	3,201,047	
小計(y)	3,201,047	0	3,201,047	
支出合計 (B = k + j + y)	16,536,047	10,825,335	5,710,712	
収支差額(A - B)	0	4,196,047	▲ 4,196,047	